

### III. 2019年全病院指標測定分析の特徴

#### はじめに

2019年度の参加病院数は95、民医連指標62、厚労省共通指標23の計85指標となっています。2018年から採用した厚労省共通指標は2年目となりました。まだ、結果の傾向について論議する状況ではありませんが、民医連以外の病院とのベンチマークが可能になっていくものと期待しています。

民医連のQIへの取り組みは、多くの中小病院が参加し、参加病院間でデータを比較することができるweb上の仕組みを持ったものとして高く評価されています。このデータの豊富さと自在に集計できる特徴を活かした集計を試みました。

集計されたデータを眺めてみると欠測値の存在が気になります。データ提出病院の少ない指標や、12ヶ月すべて揃えて提出出来ていない病院が目立つ指標があります。今回は、提出しやすい指標や各病院の提出の概況をイメージするために、欠測値なく提出できているデータの分布について調査してみました。

#### 完全提出した病院数でランクづけした項目数について

全病院対象の48指標84項目について集計しました。

毎月データ提出が必要な指標で年間12回提出していれば完全提出、同様に年間2回あるいは1回提出の指標ではそれぞれ必要データを提出していれば完全提出としました。完全提出病院数がいくつあったかでランク付けして項目数を集計したのが以下の表です。

完全提出の病院数	項目数
0～9病院	5
10～19病院	6
20～29病院	7
30～39病院	14
40～49病院	26
50～59病院	23
60～69病院	3

完全提出病院数の最大値は64でした。参加病院数は95ですので、68%にあたります。すなわち、最も完全提出率が高い指標でも32%の病院では完全提出を実現できていないということになります。

40～49病院が完全提出できるというランクが最も多く26項目でした。中央値もこのランクに含まれます。84項目を対象としていますので、おおまかには「半分以上の病院が完全提出できる指標（項目）が全体の約半分」とイメージすることができます。

欠測値なく提出できている病院が0～9の指標が5個ありました。これらは最も提出が困難な指標と思われます。具体的には、指標37：胃がん手術後平均在院日数、厚8：新規に悪性腫瘍と診断された患者のうち複数の診療科による治療方針の検討がなされた割合、厚9：麻薬処方患者における痛みの程度の記載率、厚15A：手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率、厚15C：術後48時間以内の予防的抗菌薬投与停止率の4指標5項目です。

逆に60病院以上が完全提出できていた項目は、指標8B：治療を必要とする転倒・転落件数、指標27：退院後2週間以内

の退院サマリー完成数、指標59A：患者・家族から申請があって閲覧・複写など対応したもの（訴訟・警察依頼は除く）の3項目でした。

厚生労働省共通指標に提出困難なものが集中している印象があります。まだ採用して間もないために各病院での取り組みが追いついていない可能性があります。一方、転倒やサマリー記載に関しては、病院管理上、日常的に問われる項目ですので、多くの病院で調査集計ができていると思われます。

#### 完全提出した指標数でランクづけした病院数について

病院毎に完全提出できた指標数を算出して、その数でランク付けして病院数を集計してみました。その結果が以下の表です。

完全提出の項目数	病院数
0項目	18
1～9項目	10
10～19項目	5
20～29項目	4
30～39項目	8
40～49項目	13
50～59項目	16
60～69項目	12
70～80項目	9

一見して目につくのが、一つも完全提出できていない病院が18あることです。9項目までの提出数のランクも含めると計28の病院(29%)が10未満の項目しか完全提出できていないということが分かります。

一方で、95項目中70項目以上を完全提出できている病院が8ありました。これらの病院の取り組みは大変すぐれており模範的であると思われます。

#### まとめ

今回は、煩雑な数字の集計の話になってしまいました。

全体として言えるのは、完全提出率の高いものから低いものまで指標の難易度に大きなばらつきがあることが観えることです。新たに取り入れた厚生労働省の共通指標の提出状況は今後も注意する必要があると思われます。

そして、提出する病院にも大きなばらつきがあることが見てとれました。担当者の配置状況など体制上の制約が影響しているのでしょうか。提出率の高い病院での、指標の活用の状況など是非参考にしたいものです。

QIの推進は一種の文化の醸成とも言えます。新型コロナウィルス感染症の影響で交流の機会が少なくなりましたが、他の病院と自院とのデータ比較を通して自院の活動を振り返るなど、行えることは積極的に取り組んでいきましょう。